

オスプレイの配備撤回、陸自オスプレイの導入中止を求める(談話)

2017年8月7日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

5日午後、沖縄の普天間基地に配備されている米海兵隊のMV22 オスプレイが、オーストラリアで訓練中、またしても墜落し、3人が行方不明になっていると伝えられています。

相次ぐ重大な墜落事故を繰り返し、沖縄県民をはじめ多くの国民が配備撤回を求めているオスプレイを配備し続け、訓練を全国に拡大している日米両政府に対して断固抗議し、配備撤回を改めて強く求めます。また、安倍政権が佐賀空港への配備を想定してすすめているオスプレイの陸上自衛隊への導入と、米軍が予定している東京・横田基地への米空軍CV22 オスプレイの配備中止、さらに今月、北海道で計画されている訓練をはじめ、オスプレイ参加の日米合同訓練の中止を要求します。

オスプレイは、開発段階から重大な事故を繰り返し、1991年以降に11回の重大事故で39人の命を奪っている世界に知られた構造的欠陥機です。

昨年12月13日には、今回の事故機と同じ普天間基地配備のオスプレイが夜間の空中給油中に沖縄県名護市安部の集落近くの海岸に墜落、大破しました。この事故に対して地元住民、沖縄県民は強く抗議し、原因究明までの飛行中止、配備撤回を求めています。しかし米軍は、この重大事故を「不時着水」と呼び、事故の6日後からオスプレイの飛行を再開し、1月5日からは空中給油訓練を再開し、安倍政権はこれを容認しています。

このような中で、今回のような事故が引き起こされたことは極めて重大であり、もはやオスプレイの配備続行と訓練の全国への拡大、米空軍による横田配備、自衛隊の導入は絶対に許されません。

私たちは、沖縄県民との連帯をさらに強め、オスプレイの大量配備が予定される辺野古新基地建設反対、高江オスプレイパッド撤去などの課題とも結んで、たたかう決意を表明します。

以上